

「神が共にいない人生の悲惨」
マタイによる福音書 27 章 1-10 節

2022.12.18

●**アウトライン**

1. 神が共にいない人生の悲惨

- ・ イスカリオテのユダという人
- ・ ユダの後悔と聖書の語る「真の悔い改め」の違い
- ・ 主イエスではなく、自分自身の力に依り頼んだユダ
- ・ 神が共にいない人生=自己責任論
- ・ 罪の問題における根深い自己責任論

2. 主イエスのもとに立ち帰る

- ・ ユダとペトロの違い
- ・ 不甲斐なくとも、弱くとも、主イエスのもとに帰っていったペトロ
- ・ 自分自身の姿に絶望した時にこそ、神のもとに立ち帰り、キリストの御力に依り頼もう。
- ・ 神のもとには赦しがあり、主イエスはあなたが帰ってくることを待っておられる。

●**聖書箇所**

【ヨハネによる福音書 12 章 6 節、新約聖書 191 ページ】

「彼がこう言ったのは、貧しい人々のことを心にかけていたからではない。彼は盗人であって、金入れを預かっていながら、その中身をごまかしていたからである。」

【ルカによる福音書 24 章 46-47 節、新約聖書 161-162 ページ】

「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。」

【ゼカリヤ書 11 章 12-13 節、旧約聖書 1491 ページ】

「わたしは彼らに言った。『もし、お前たちの目に良しとするなら、わたしに賃金を支払え。そうでなければ、支払わなくてもよい。』彼らは銀三十シケルを量り、わたしに賃金としてくれた。主はわたしに言われた。『それを鋳物師に投げ与えよ。わたしが彼らによって値をつけられた見事な金額を。』わたしはその銀三十シケルを取って、主の神殿で鋳物師に投げ与えた。」